

## なからぎ

215号

2016年10月

## わが浪人時代 — ジャズ喫茶と読書 — (京都河原町編)

文学部長 藤原英城

本誌183号(2008年4月)に掲載された(東京新宿編)の続編を望む一部のマニア?の方々からの声にお応えして、畏れ多くも巻頭に8年ぶりに復活します。乞ご笑覧。

時は昭和56年、東京を離れ、京都での新たな浪人生活が始まった。

京都では紫竹辺りにアパートを借りたが、それは近くにあった上堀川のバス停から9番の市バスで、乗り換えなしの一直線で当時通っていた予備校に通学できたからだった。しかし、そこには大きな関門がひかえていた(どこかで読んだような……)。バス停には三条京阪行き37番が頻繁に停車し、9番を待つ間に続けて2台ということもしばしばであった。

これを神からの啓示と悟ったF青年は、今度も「書を捨てよ」とはいかず、またしても未練たらしく書を携えて河原町へ、禁断のジャズ喫茶通いが始まるのであった。しかし時は人を成長させるものである。東京時代とは変わり、お守り代わりとは言え、受験参考書もどき(南雲堂の『訳注ラッセル選』だったかな?)を持ち歩いたりするようにもなっていた。

大学生に負けない教養を身に付けなければならないというトンチンカンな強迫観念に憑かれていた浪人生のF青年にとって、河原町は大学を強烈に意識させる文化の香りがあった。猥雑な新宿とは違い、目抜き通りに鎮座する駸々堂・丸善、何よりも散在する古書店の存在が大学の街京都を印象付けたのである。キクオ書店・京阪書房・大学堂・赤尾照文堂などを廻り、路地裏にあるジャズ喫茶へ潜行するのが日課となっていたが、当時の本を少し探し出してみると、K.レヴィット『ヘーゲル・マルクス・キェルケゴール』(未来社、1972年9月20日、第5刷)、K.ポパー『歴史主義の貧困』(中央公論社、昭和51年6月25日、22版)などには京阪書房の書票が貼付されているし、サルトルの『嘔吐』(人文書院、昭和56年7月20日、改訂重版)などはおそらく駸々堂で購入したものであったろう。

河原町三条上ル東の京阪書房の本が多いのはおそらく偶然ではない。朝日会館裏のジャズ喫茶ZABOは当時のお気に入りだったからである。洞窟のような地下室で、アルテックの大型スピーカーからフリージャズが一日中鳴り響くその異様さは、筆舌に尽くしがたいものがあった(ああ、アルバート・アイラーよ!)。不気味さから言えば、暗闇の壁一面に蝶の標本が並ぶ蝶類圖鑑(当時の丸善角東入ル)もあったが、その続きはまたの機会に。

(ふじわら ひでき：文学部教授)

御紹介の『訳注ラッセル選』(現代作家シリーズ54) ラッセル著；佐山栄太郎編著 南雲堂 1960.7 (請求記号934.7 || R)、『ヘーゲル・マルクス・キェルケゴール』カール・レヴィット著；柴田治三郎訳 未来社 1967.10 (請求記号134 || L)、『歴史主義の貧困：社会科学の方法と実践』カール・R.ポパー著；久野収、市井三郎訳 中央公論社 1961.5 (請求記号201.1 || P)、『嘔吐』(サルトル全集6) サルトル著；白井浩司訳 改訂 人文書院 1976.12 (請求記号958.78 || S || 6) は、2階閲覧室入口に配架していますので御活用ください。

## 乱読のすすめ

図書館運営委員 河合慎介

今年の夏、国際会議のプレゼンテーションでウィーンを訪れた。ウィーンは建築を学ぶ者や専門とする者にとって、一度は訪れたい特別な地のひとつだ。例えば、近代建築の三大巨匠のひとりであるル・コルビュジェの作品にアクセスできるパリ、ルネッサンス期の美しい町並みを色濃く残すフィレンツェなどと同様に、ウィーンは新しい時代への幕開けを感じることができる。建築の様式は数世紀かけゴシック、ルネッサンス、バロック、ロココ、世紀末、現代の直接的な基層となる近代、そして現代へと移り変わってきた。ウィーンには各時代の名建築が時を跨いで揃う。とりわけ近代建築への移行期である世紀末の傑作、ゼセッションやアール・ヌーボーのマジヨリカハウスは見逃せない。

そのウィーンには、訪れるべき図書館が2カ所ある。近年、「世界でいちばん美しい〇〇」といった類の写真集が数多く出版されている。ウィーンにも世界一美しい図書館とされている図書館がある。王立図書館プルンクザールである(図1)。18世紀前半に建設されたバロック様式で、大理石のオーダーと天井画、そして光による伝統的な空間美が特徴的だ。何よりも書架に取り囲まれ、本の物的存在、荘厳な読書空間に圧倒される。一方、近年建設されたウィーン経済大学の図書館は、新国立競技場のコンペで一躍話題となった建築家ザハ・ハディド氏により設計された(図2、3)。ここでは新国立競技場の話はさておき、建築を構成する言語は既存によく見られる言語とは全く異なる。不安定で流動的なフォルムの構成、床や壁に水平垂直の秩序はなく空間がうねるように連なる。そして本の存在は感じられず、読書空間は散在する。同



図1 王立図書館プルンクザール内観



図2 ウィーン経済大学図書館外観

日に2カ所を訪れ、かくも異なるものかと考えさせられた。建築様式、本の存在意義、読書の場、比較するとあまりにも両極で分かり易く興味深い。本の重さに安心感を覚え、装丁のデザインが気になり、本を読む居心地



図3 ウィーン経済大学図書館内観

にこだわる私はどうやらすっかりアナログ人間になってしまっているようだ。

まだ大学生の頃、読書は裏切らないと教えられた。読んだ本は即時的に役に立つとは限らないが、いつかその知識が役に立つ時があり、決して無駄にならないという意味であろう。確かに、大学生になる前は小説を読みふけた。大学生になってからは恩師の影響が多分にあり対象が広がり、手当たり次第読んだと記憶している。量をこなし、乱読することで、頭の中に知識のネットワークが構築され、新しい知識が関連づけられ、知的興味を展開するとのことだ。この言わば大きなアンテナをつくりはじめることが学生時にすべきことと恩師に言われ続けた。学生当時、狭いアパート暮らしで本の置き場に困窮し、冷蔵庫までもが本棚化した時はさすがに友人に笑われた。しかし未だに恩師の当時の読書量には追いついていないと思う。そんな本棚の中から 2 冊紹介したい。

1 冊目は『フェルマーの最終定理』（サイモン・シン著、青木薫訳、新潮社）である。先に断っておくが、私は数学が苦手である、工学博士であるにも関わらず。書店で何気なしに手に取った。著者がテレビ局の BBC で制作したドキュメンタリーをもとに書き下ろした。次の著書『暗号解読』でも発揮されている徹底した取材には目を見張る。ここでは、数学の本質論ではなく、むしろ一つの定理の証明に挑む姿が描かれている。ルネッサンス期にピエール・ド・フェルマーが残した、3 世紀もの間誰も解くことができなかった難問「フェルマーの最終定理」の証明に、数学者アンドリュー・ワイルズが挑んだ。子どもの頃から 30 年越しの夢であり、7 年という歳月の研究期間、あえて共同研究を絶ち孤独に立ち向かった。一旦は証明できたことを公表するが、証明の欠陥を指摘され、再度挑み証明してみせる物語である。数学というテーマながら、追真のドキュメンタリーとして著者の

世界観に引き込まれる。

2 冊目は『錯乱のニューヨーク』（レム・コールハース著、鈴木圭介訳、筑摩書房）である。気鋭の世界的建築家の無名の頃の著書であるが、建築家本にありがちな制作時に考えたことやエッセイの寄せ集め、あるいは建築マニアに向けた哲学的な本と一線を画する。ざっくり言えばニューヨークの都市史であるが、一般の歴史書とは何かが違う。宗教的論理でもなく、時の支配者の理念でもなく、自発的に立ち上がった摩天楼が土地、技術の革新、自由競争の経済、欲望など背景となる事象の断片をつむぎ、一つの有機体として描かれている。著者の洞察力、鋭い切り口、知的ユーモアには脱帽する。

2 冊を通して、物事を追求するとはかくあるべきと教えられた気がする。皆さんも学生時代に琴線に触れる本に出会えることを期待したい。



#### 図書紹介

左：フェルマーの最終定理、サイモン・シン著、青木薫訳、新潮社、2000

右：錯乱のニューヨーク、レム・コールハース著、鈴木圭介訳、筑摩書房、1995 (1978、N.Y.)

(かわい しんすけ)

環境デザイン学科准教授)

御紹介の『フェルマーの最終定理』（新潮文庫）サイモン・シン著；青木薫訳 新潮社 2006.6（請求記号 412.2 || S）、『錯乱のニューヨーク』（ちくま学芸文庫）レム・コールハース著；鈴木圭介訳 筑摩書房 1999.12（請求記号 523.53 || K）は、2 階閲覧室入口に配架していますので御活用ください。



## 新館移転に向けた準備について

(臨時休館中の取り組み)

京都府立大学の合同講義棟の北側に平成25年7月から京都府が建設工事を進めてきた建物が7月に完成し、正式名称が「京都学・歴彩館」と定められました。まだ、内装や外構の工事が残っていますが、京都学ラウンジ、大・小ホールや展示室のある一階部分は、12月下旬の開館を予定して準備が進められています。

本学附属図書館は、来春には2階部分に移転し、京都資料総合閲覧室（現総合資料館閲覧室）とワンフロアとなる形で、新たにオープンする予定です。

その準備のため、8月12日（金）から9月16日（金）までの間、臨時休館をして、新館移転に向けた準備を行いました。期間中、他大学との相互利用、雑誌の一時持ち出しなどには対応しましたが、皆様には大変ご迷惑をおかけしました。

ここでは、臨時休館中の取り組みについてご紹介します。

### ICタグの貼付作業

新館では、「貸出・返却」、「蔵書点検」、「無断帯出防止」を効果的、効率的に行うためICタグを導入します。

これにより、貸出・返却や蔵書点検時に1冊ずつバーコードを読み込む必要がなくなり、閲覧室へ図書を持ち込む際の「持ち込み冊数表示板」による確認も不要となります。

このICタグを本館が所蔵する20万冊を超える図書全てに貼付することが必要であり、来年の2月10日までにこの作業を完了することにしています。

しかし、利用者への影響を極力少なくするため、夏期休業中に臨時休館して、集中的に作業を行うことにしました。特に利用に支障

がある2階閲覧室・書庫及び東書庫Ⅰ・Ⅱの図書への貼付を先行させ、これらについてはICタグの貼付を終えることができました。9月16日（金）までの臨時休館中に貼付を終えた図書の数は、91,931冊であり、予定どおりの進捗となっています。

今後も1階と3階書庫の図書や視聴覚資料等について、ブックトラックで移動して3階控室で作業を行いますので、一時的にご利用いただけない場合があります。詳細は図書館HPや館内掲示でお知らせしていますので、そちらをご覧ください。

### その他準備作業

新館では、これまでの閲覧・複写だけではなく、新たに府民への貸出サービスを始めます。これに対応し、府大構成員へのサービスとの両立を図るため、学内者専用貸出資料の選別や貸出区分の変更などに取り組みました。

準貴重書の選定や移動、研究室からの移管資料への所在ラベル貼付を行うとともに、図書の除籍や雑誌の廃棄処理などの作業も行いました。

また、新館での配架計画の策定なども進めました。

以上、臨時休館中の取り組みについて、ご報告します。



〈京都府立京都学・歴彩館〉



## 平成28年度 第1回 図書館運営委員会開催報告

平成28年度第1回の附属図書館運営委員会が7月12日(火)に第1会議室で開催されました。その概要は、次のとおりです。

### 協議・報告事項

#### (1) 図書館運営委員会委員について

今年度の委員を紹介、「自己評価・あり方検討WG」、「選書WG」、「電子ジャーナルWG」の構成メンバーが決定された。

#### (2) 新資料館への図書館の移転について

新館移転に伴う準備作業とその予定(案)について報告、質疑、意見交換を行い、図書館運営委員会としての確認や情報共有を行った。

現図書館所蔵の全資料移転、新館での配架計画概略、月1回の平日休館導入について了承された。

開館中の閲覧室・東書庫利用に支障が出ないようICタグ貼付作業を集中実施することとし、蔵書点検期間に加え9月16日までの臨時休館が提案され、休館中も他大学への閲覧・資料取寄依頼等に柔軟に対応することを条件に了承された。

#### (3) 平成27年度の決算及び事業報告について

決算・活動報告、機関リポジトリによる学位論文(博士)の公開、図書館運営費から捻出でのe-Book購入などについて報告があり、各委員の質疑を経て承認された。

#### (4) 平成28年度予算について

主要事項は昨年度予算と変更なし。新館閲覧室の書架・机等は京都府において調達される。研究個室、事務室等の備品購入費が計上されているが、マイクロリーダープリンター

や地下書庫の防犯カメラなど、予算化されなかったものについても必要なものは経費を捻出して対応することが必要なことを報告。

#### (5) 電子ジャーナル購読について

価格の高騰、為替相場の影響などにより、昨年度大幅な見直しが行われた。これに基づき今年度の契約は完了しており、今後も継続することが了承された。

#### (6) 学習基本図書の購入リスト提出の依頼について

全教員への依頼を行うが、新館移転準備もあるので、提出期限は10月末を厳守することとされた。

#### (7) その他

以下の予定について説明を行った。

##### ① 夏休み長期貸出について

学部生・院生への長期貸出冊数を昨年度同様12冊として実施する。

##### ② 7月26日に図書館運営委員の新館見学会を開催する。

### 平成28年度 図書館運営委員会 (WG体制案)

28.4.1 現在

所属	職名	委員氏名	所属WG
附属図書館	館長 (生命環境科学研究科教授)	田中和博	
文学部	教授	山崎福之	自己評価・あり方検討
	教授	中純夫	電子ジャーナル
	准教授	出口菜摘	選書
公共政策学部	准教授	下村誠	電子ジャーナル
	准教授	川勝健志	自己評価・あり方検討
	准教授	田所祐史	選書
生命環境科学研究科	教授	矢内純太	選書
	教授	牛田一成	電子ジャーナル
	助教	青井渉	自己評価・あり方検討
	准教授	田伏正佳	電子ジャーナル
	准教授	河合慎介	自己評価・あり方検討
附属図書館	教授	高原光	選書
	事務長	岡本誠	
	主査	亀村志保	

## 図書館からのお知らせ

### 「2016オープンキャンパス」；図書館も開放しました！！

7月23日(土)・24日(日)にオープンキャンパスが開催され、好天にも恵まれて、昨年を大きく上回る大勢の高校生、保護者の方々と賑わいました。

図書館では、両日の午前10時から午後4時まで2階閲覧室を開放し、蔵書資料をゆっくり手にとってご覧いただきました。

来館者数は23日(土)762人(うち高校生492人)、24日(日)554人(うち高校生365人)の合計1,316人と、館内は多くの高校生、保護者の方々と溢れ、校内ツアーコースで図書館を見学した人、ご家族連れ、模擬授業等の合間に見学する人、あらためて再度訪れゆっくりと資料を手にとって見る人等々、閉館時間まで有意義に過ごしていただきました。

閲覧室の様子を見学される方が多いなかで、座席で長時間読書をする方や、府大コーナーで熱心に学位論文を見ておられる方々も数多くおられました。なかには「エジプトのことについて書かれた図書はどこにありますか?」とか、「蔵書数は何冊ありますか?」などとカウンターで質問する熱心な高校生も見受けられました。

豊富な資料や、新図書館への期待など図書館に対する感想も多く寄せられており、今度は本学学生としてゆっくり図書館を訪れてもらうことを願いながら、今後ともサービス向上に努めていきます。



〈高校生等で賑わう閲覧室〉

## カレンダー

### 開館時間

9:00～  
21:00

9:00～  
17:00

休館  
土日祝  
年末

☆閉館時の図書の返却は、図書館西側(喫煙コーナー付近)の返却ポストをご利用ください。

### 2016年10月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	★11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

★10/11(火)夏休み長期貸出返却予定日

### 2016年11月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

### 2016年12月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

- ★12/9(金)～冬休み長期貸出開始  
※返却予定日 1/17(火)
- ★12/28(水)～1/4(水)年末年始休館
- ★1/5(木)～開館(9:00～17:00)
- ★1/10(火)～通常開館(9:00～21:00)

